

# SEシリーズ取扱説明書

対象型番SE415, SE515, SE445, SE545形

工具を安全にお使いいただくために、下記要領、手順を守り、正しくお使いください。

## インサート取付要領

### (1) 清掃

- 図1のインサート取付部(シート面(A)、サポータ面(B)、本体面(C)、クサビ面(D))をエアブローにより清掃してください。
- インサートの上下面、外周面をウエスなどで清掃してください。

拭き取って取れない付着物も、ハンドラップャーにより必ず除去してください。

### (2) インサート取付け

- 図2のようにインサートをシート面(A)に沿って下に滑り下ろしてください。
- 図3のようにインサートを本体面(C)に沿って滑らせて、サポータ面(B)に2~3回押し当ててください。

### (3) インサート締め付け(図4)

- インサートを3つの面(A)(B)(C)に押し付けたままの状態、クサビT用ねじを、Tレンチで軽く締めてください。
- インサートから手を離し、クサビT用ねじをTレンチで本締めしてください。(締め付けトルク8 N・m)

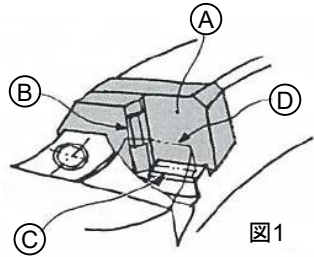


図1

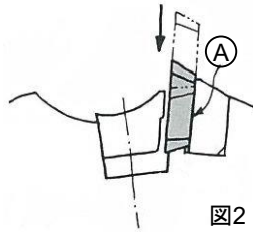


図2

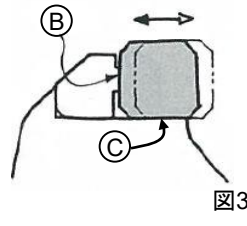


図3

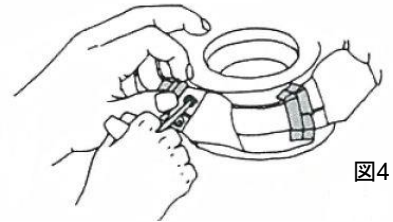
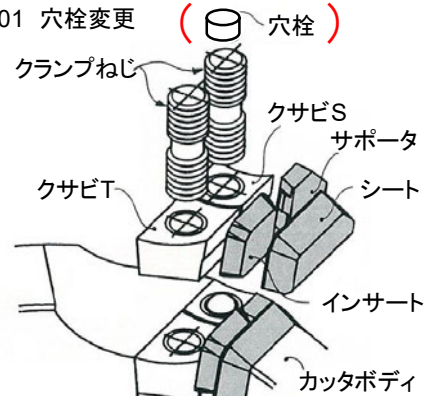


図4



部品名称説明図

## 部品交換の手順

Tレンチ及び各部品は消耗品ですので、下記の目安に基づき、新品に交換してください。

万が一の事故で、シートまたはサポータが損傷した場合は、下記要領に従い、正しい方法で新しい物品と交換してください。

### (1) 部品交換の目安 (各部品の型番はカタログにてご確認ください。)

- Tレンチ : クランプねじに差し込む先端のトルクス形状部分が塑性変形し、締め付けにくくなってきた場合。
- クランプねじ : Tレンチを差し込むトルクス形状穴が塑性変形し、締め付けにくくなってきた場合。
- クサビ : インサートの締め付けが不安定になってきた場合。
- シート : 図5のように稜線部に幅0.5mm×長さ1mm以上の損傷がある場合。
- サポータ : 図6のインサートとの接触稜線(E)部に損傷がある場合。
- 穴栓 : シート・サポータを交換する場合。

### (2) シート・サポータの交換手順

- インサートとクサビTを外してください。
- クサビS用のクランプねじに付着している穴栓を、先のとがったもので取り除いてください。
- クサビS用のクランプねじを緩め、シート・サポータを外してください。その際、切れ刃溝毎に、サポータ裏面に記されたランキング記号(英字)をメモしておいてください。
- 新しいサポータは、損傷したサポータと同じランキング記号に合わせ、清掃された本体溝にシートと共にセットしてください。
- シート・サポータを手で押さえながら、クサビS用ねじをTレンチで軽く締めてください。
- シート・サポータから手を離し、クサビS用ねじをTレンチで本締めしてください。(締め付けトルク10 N・m)
- (注意)クサビT・S用のクランプねじは図8のように頭部がクサビ面から0~1mm沈むようにセットしてください。
- クサビS用のクランプねじに穴栓を取り付けてください。**※穴栓の取り付け方(次のページ)を参照ください。**

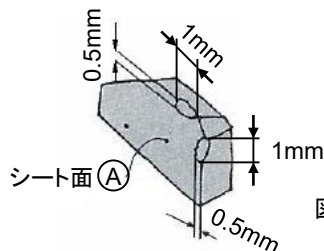


図5

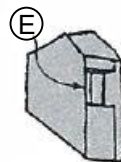


図6

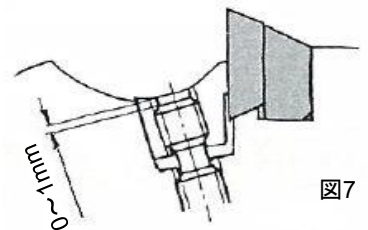
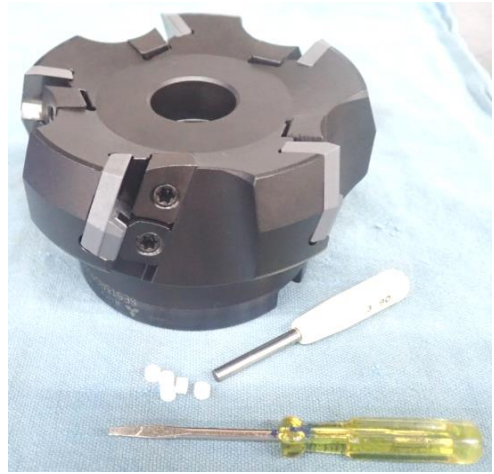


図7

# 穴栓の取り付け方

## 1. 穴栓挿入作業で準備するもの。

- ① 精密ドライバー（シリコンゴムの穴栓をレンチ穴に押し込むのに使用）
- ② 先端がフラットな  $\phi 3.3 \sim \phi 4.4$  のピン



## 2. 穴栓挿入方法

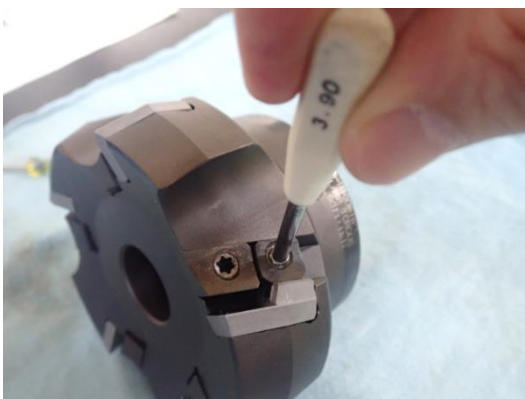
- ① 穴栓を斜めに突き当て、精密ドライバーでシリコンを潰しながら押し込む。



- ② 精密ドライバーで押し込み終わった状態。



- ③ 先端がフラットな  $\phi 3.3 \sim \phi 4.4$  のピンで、更に押し込む。ピンがネジのドライブサイズより大きいいため、レンチ穴上部で穴栓が止まる。



- ④ 穴栓取付け完了状態。

